

令和6年度第2回庄原市情報教育研修会

- 日 時：令和7年2月18日（火） 13：30～16：35
- 場 所：庄原市立口和小学校
- 対象者：庄原市内各小・中学校のICT活用推進リーダー

目 的

- 授業におけるタブレット端末の活用について研修することを通して、児童生徒が主体的に学び合う学習を目指した授業改善を図る。
- タブレット端末活用状況について確認するとともに、自校の活用状況について振り返る。
- 今後の予定について知ること、年度更新に向けた見通しをもつ。

【講話】 「タブレット端末の活用状況について」

庄原市教育委員会 教育指導課 指導主事 末田 和也

- 本市の教職員、児童生徒の授業におけるタブレット端末の活用は増加傾向にある。しかし、依然として児童、生徒の活用より教職員のみが活用している授業の方が多い。
- 社会の変化に伴って、子供たちが将来ICT機器を活用できるように、小学校・中学校においても情報活用能力を育成しながら、児童生徒の一人一台端末の利活用を促進していく必要がある。

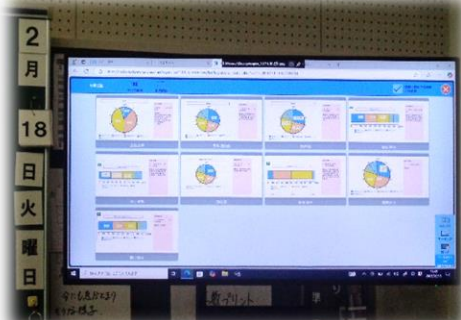
【研究授業】 第5学年 算数科 「帯グラフと円グラフ」

授業者：庄原市立口和小学校 教諭 懸田 修平

【協議・講話】「タブレット端末を活用した主体的に学び合う学習を目指した授業づくり」

庄原市教育委員会 教育指導課 指導主事 末田 和也

- 庄原市立口和小学校のタブレット端末を活用した授業を参観し、「主体的に学び合う学習となっていたか」について協議を行った。
- タブレット端末の活用は手段であり目的ではない。教員が授業の中で子供たちにどのような資質・能力を育成させたいか明確にした上で、どのようなタブレットの活用方法が必要か考えることが大切である。



【グループ協議】

- ・単元のゴールに必然性があり、児童が主体的に学習に取り組んでいた。振り返りをスプレッドシートで行っており、友達の意見を参考にしながら書くことができていた。Sky menuの共有機能を使っており、それぞれの児童の意見をリアルタイムで可視化することができていた。
- ・よりねらいに迫る授業にするためには、帯グラフ・円グラフを使うよさとは何か、割合と人数どちらに目を向けたらよいかなど、対話の視点があるとよいと感じた。

【参加者の感想等】

- ・限られた授業時間の中で、ねらいを達成するためには、ICTをどう活用すると効果的なのか考え、しっかりと目的をもって仕組んでいくことが必要だと思った。
- ・各学年の実態に応じて身に付けさせたいICT活用スキルを明確にしておく必要があると感じた。そのために、教職員全体で、ICTの活用を進めていけるようにしたい。